

# 市民病院だより

医療環境が大きく変化する今、未来につなげる看護の提供へ

総看護師長 毎熊 恵子

平成29年4月より小城市市民病院総看護師長として就任しました毎熊恵子と申します。

就任して早くも半年が過ぎましたが、今一度小城市市民病院の歴史をふり返りながら、看護界が目指している方向性とともに、市民の皆様のために地域医療に貢献し、さらに成長していきたいと思っております。

今、日本は世界のどの国もかつて経験したことのない超高齢化社会を迎えようとしています。2025年には団塊の世代全員が75歳以上となり、医療・介護需要が急増することが予測されています。国は、地域における「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」の5つのサービスを一体的に提供できる「地

域包括ケアシステム」構築のための取り組みを進めており、「住み慣れた地域で最期まで自分らしく安心して暮らしたい」という切なる願いを実現するために、私たち看護職はそれを支えていく使命があると思っております。

小城市市民病院は、昭和26年1月に国保直診診療所（19床）として開設され、昭和34年4月小城市立病院（22床）に改称、昭和58年改築工事が完成し50床となり、平成元年11月4階増築工事99床となり現在に至っています。平成17年3月小城市市民病院へ名称変更し、平成26年10月には地域包括ケア病床が設置され、現在15床稼働しています。この地域包括ケア病床は、急性期病院からの転院患者様または一般病棟での急性期治療を行っ

た患者様が、継続的なりハビリを行い、住宅（自宅や施設）へ退院を目的とする病室です。また、平成27年4月には「訪問看護ステーションおぎ」が開設されました。看護や介護が必要となった場合においても、その利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができよう、療養生活を支援し、心身の機能の維持回復を目指しています。

病院の理念は、「信頼される医療人として研鑽に努め、温かい病院を目指します。地域の病院として他の医療機関と連携を図り、思いやりと心の通う医療に努め、市民の皆様のために良質なサービスと、患者様、家族の方に安心できる医療を提供します」と謳っています。そして、私たち看護職は、「患者様の思いに心を傾ける看護を目指します」という理念のもと、患者様との出会いに感謝し、患者様の思いに心を傾ける看護、そして看護職者が生き生きと楽しく働

く職場を目指します。

毎朝、看護部の理念を唱和し、日々の業務に専念している看護スタッフに感謝するとともに、「私は、何を成すために、今、ここにいるのか」を問いながら、ともに、より良い看護を目指したいと思えます。また、地域の看護学生の臨地実習指導や中学生・高校生の看護体験などにも関わっています。将来の看護職を目指す貴重な人材を大切に育てることも私たちの役割であり、そのためにも自己研鑽を重ねる必要があると思っております。患者様に安心して信頼できる看護が提供できるよう努力していきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



お知らせ

インフルエンザ予防接種を行っています。

事前に問い合わせください。

【問合せ】小城市市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>